

京都大学大学院農学研究科  
生物資源経済学専攻 寄附講座  
「農林中央金庫」次世代を担う農企業戦略論講座



1  
農林中央金庫

# 農業経営の未来戦略 ～ケースメソッド～

2015年12月21日

# ケースメソッドとは何か？—「討議型」授業

2

- ケースメソッドの明確な定義は存在しない。あえて表現するならば…

**参加者が実際の事例(ケース)をもとに討議を重ねることで、**

**実践に備えうる叡智を紡ぎ、**

**困難に立ち向かう姿勢と態度を涵養するための**

**教育方法**

# ケースメソッドとは何か？—ケースメソッドの歴史

3

- 1920年代にハーバード大学ロースクールで行われた、判例を用いた判例研究授業が原型。
- 1930年代に「判例」を「経営事例」に置き換えて、ビジネススクールに導入された。
- 以降、ビジネススクールを中心に、経営人材向けの教育訓練方法として注目される。
- 日本では1960年代以降に導入されたが、農業関係でのケースメソッドはほとんど無い。

# ケースメソッドとは何か？—講義との違い

4

	講 義	ケースメソッド
教 材	テキスト	ケース(経営事例)
主 体	講 師	参 加 者
運 営 方 法	講 師 に よ る 授 業	自 習 と デ ィ ス カ ッ シ ョ ン
講 師 の 役 割	知 識 を 伝 達 す る	学 び を サ ポ ー ト す る
ゴ ー ル	既 存 の 知 識 の 習 得	考 え 抜 く 「 態 度 」 や 「 姿 勢 」

# ケースメソッドの実施手順

5

- ケースメソッドの手順は3段階
  - 個人学習  
事前に配布された資料を読み込み、自分なりの回答を用意する
  - グループ討議  
個人学習の成果をもとに、班内で討議する
  - クラス討議  
講師の進行のもとで議論を行い、参加者が考えて答える



# ケースメソッドのねらいー何を学ぶのか

6

- 他者の意見を聞くことで、視野が広がる



- 自分の意見を述べることで、深く考えられる



- 討議（ディスカッション）を通じて、自分の思考の枠組みを、より広く深いものに再構築することができる

**ケースメソッドでは、判断の正しさではなく、その判断に至る「思考のプロセス」を鍛えることが重要**

# ケースメソッドのねらいー6次産業化への応用

7

- 6次産業化は「生産」、「加工」、「販売」、「サービス」を組み合わせて、新しい需要を作り出していくもの
- 何をどのように組み合わせるのか、その時に何が問題となるのか、課題解決のための具体的な方法は何かetc...



- 6次産業化を進める上で必要な能力は
  - 異なる部門を束ねる**統合力**
  - ダイナミックに進行する仕事の中で問題を見抜く**洞察力**
  - 必要な時に必要な判断を行う**意思決定力**

⇒こうした能力を育成しようとするのが **ケースメソッド**

# ケースメソッドに関する注意事項ー討議の前に

8

## ➤ 勇気

間違えることを恐れない。発言することが個人の学び、全体の学びにつながる

## ➤ 礼節

議論をするときには礼節をわきまえる。みんなが「話して良かった」と思える雰囲気づくりを。

## ➤ 寛容

自分の考えは自分にしか通用しない。他の人の意見も受け入れる度量の大きさを。



# ケースメソッドに関する注意事項ー始める前に

9

- 思考プロセスを鍛えることが大事なので、「正解」を探さないこと。（そもそも経営に「正解」はない。あるのは「（メンバーで作り上げる）最善解」。）
- ケースの中の限られた経営情報での意思決定を心がける。（実際の現場で100%の情報を持てるでしょうか？ 情報を集める時間はあるでしょうか？）
- たかが疑似体験、されど疑似体験。当事者意識を持つことが深い学びにつながります。（そのためにも積極的な発言が重要です）

# ケースメソッドの概要

10

- ケースⅠ
- 地域協同組合組織
- 研究開発部門における人的資源管理
- 経営理念/組織理念の浸透
- ケースⅡ
- 多角化志向の農業経営
- 事業環境分析
- 経営戦略策定